

安定を避ける

以前、宇宙飛行士の若田光一さんが著書の中でこんなことを書いていました。

それは、「私は、物事が単調に問題なく進むようになってくるとモチベーションが下がる傾向にある。そこでルーティーンワークに慣れてしまった安定した精神状態から、あえて自分が不均衡な状態になるように意図的に仕向けてみる…」ということです。

そのため若田さんは、ある程度慣れてきて自分の技量レベルが安定したと感じたら、あえて教官に頼んでさらに難しいシミュレーションに設定してもらっていました。宇宙であっても、地上であっても、安全なシステム運用のためには、慣れによる自己満足は禁物であり、常に適切な資質の維持向上が不可欠と考えたのです。

「守・破・離」という言葉があります。まずは身に付けるべき基本や既存の型を「守る」ことから始まり、その後、身に付けた基本の型を基に自分なりの応用形を創り上げることで既存の型を「破り」、最終的には自ら創り上げた型からも「離れ」、自由自在になるという言葉です。

「守」の状態を十分に習得し習熟したら、「破」⇒「離」へと常に新たな挑戦課題を自分に突き付けることで、若田さんは宇宙飛行士としての自分を常に磨き続けてきました。

若田さんの生き方は、教師という仕事の有り様にも大きな示唆を与えてくれます。

日々の授業や学級運営に何となく慣れてきて、それまでのような教材研究への熱意や自身の学級づくりへの問い直しを失ってしまうと、やがて子どもの反応となって帰ってくるはずです。

慣れや単調さを感じた時こそ、自分に負荷をかけて次の高みを目指す努力をすることが、自己の成長につながるはずです。

これからの時代は、教師にも「リフレクション(内省)」の思考が求められます。

自分自身の日々の仕事から一度離れてみて、仕事の流れや考え方・行動などを客観的に振り返るのです。うまくいったことやいかなかったこともすべて含めて見つめ直し、気づきや発見を得て、新たな行動へとつなげていくのです。

教師は子どもを中心とした関わりが多くなり、現状維持の文化に安住してしまいがちな面があると感じます。異業種や異分野から学ぶ世界が限られてしまう傾向にあると思います。教育以外の分野の人やモノや機会とも積極的に触れ合うことで、自身の価値観や世界観を広げていくことは可能だと思います。学校を取り巻く地域の方たちとの交流を増やすことも、教員としての視野を広げるチャンスとなるはずです。こうした発信も大切にしていきたいと思います。